

CONTENTS

地域に生きる！地域に学ぶ！…………… P5

世界に伸びる！留学生に聞きました…………… P6

社会の第一線で活躍する人から学ぶ…………… P8

活躍する卒業生…………… P9

研究活動紹介…………… P10

大学の動き・Information…………… P12

生き生き元気種…………… P14

イベント情報・おすすめの一冊…………… P15

# 春 秋 彩

SYUNJUSAI

特集

## 創立60周年を振り返って

「春夏秋冬…進歩」参加者座談会

P2



「冬・進歩…大学と社会」平成20年2月9日開催

2008

Spring

vol.28

特集

# 創立60周年を 振り返って



理事長  
**蓑茂 寿太郎**

四季が明瞭なところに日本列島の風景美の秘訣があります。風景画集や写真本を開いて気づくのは、夏や冬より春と秋の題材が多いことです。それほどにこの国の春秋は魅力的なのです。その二つのシーズンに多彩な情報を盛り込んで発行するこの広報誌は、通巻28号を数え、14年の歴史があります。この間、体裁はいろいろと変わってきましたが、変わらないのは学生中心の編集方針です。

本号から装いも新たに、法人化後の熊本県立大学をステークホルダー（本学に強い関心をお示しの方）に、より広く伝えようとしています。

「地域に生き、世界に伸びる」をスローガンに掲げる大学の現在、地域実学主義、そして、本学が人文科学・自然科学・社会科学の集約型大学であることなどをスマートに伝える媒体となることを期待します。

「情報」という言葉は、森鷗外がドイツ語から邦訳したものだとの説もあります。日本の情報化社会では、情報収集に大きな比重があるように感じますが、むしろ重要なのは情報発信です。自らの情報を発信することで、有益な情報が自然と集まってくる組織体でありたいし、私は、発信する学生の活力を強く期待しています。

## ～「春夏秋冬…進歩」参加者座談会～ 平成20年3月2日開催

歴史と伝統に彩られた熊本県立大学。平成19年度は、本学の前身である熊本女子専門学校が昭和22年に設置されてから、創立60周年の節目の年でありました。本学ではこの60年の歩みを基盤としつつ、未来に向け歩み続ける大学、地域に貢献する大学として、“活力ある熊本と人、そこに求められる学問”を統一テーマに、春夏秋冬の年4回、シンポジウムを開催しました。

今回、「春・進歩」、「夏・進歩」、「秋・進歩」、「冬・進歩」に参加していただいた4名の方に、シンポジウムの感想や、これからの熊本県立大学への思いや、新入生へのメッセージを語っていただきました。

### 座長

**古賀 実副学長**

創立60周年記念  
事業プロジェクト  
リーダー



### ～シンポジウムに参加して～

**古賀** 本日は、お集まりいただきありがとうございます。春、夏、秋、冬に開催しましたシンポジウムは、私たちの予想を超える多くの方々にご参加いただき大成功でした。

まず、「春・進歩…大学と学問」には、高校生の皆さんに大学というところを理解していただくために、本学の教員や学生が本学の様々な取組などを紹介しました。後藤さんは、これに参加していただきましたが、いかがでしたか？

### 参加者

受験生：  
**後藤友花さん**

「春・進歩」に参加。  
熊本県立第一高校を卒業し、4月から環境共生学部に入學



保護者：  
**宮島淳二氏**

「夏・進歩」に参加。  
平成18・19年度  
後援会長



在学生：  
**山口貴義さん**

「秋・進歩」に参加。  
平成19年度文化委員長  
総合管理学部4年



卒業生：  
**戸次元子氏**

「冬・進歩」に参加。  
熊本女子大学14回卒業  
管理栄養士



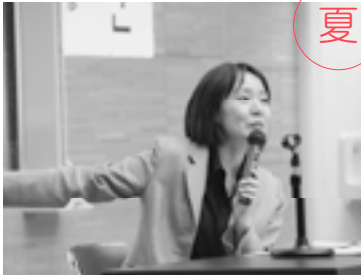
**後藤** 大学の先生方や先輩の皆さんのお話を伺い、大学に関するイメージが具体的にになりました。特に印象に残ったのは、在学生のパネルディスカッションで知った「もやいすと」育成プログラムです。地域に行き、実際にその現場を見て、課題を研究したり、地域に密着した活動をされているということを知り、私もぜひ参加してみたいと思いました。

**古賀** 「もやいすと」育成プログラムは、始めて3年目になります。昨年は、阿蘇地域と和水町、水俣・芦北地域の3カ所で行い、約130人の学生が参加しました。それぞれの地域の専門の方や学内の講師が講義を行い、地域のいろいろなことが学べますので、ぜひ、参加してください。

「夏・進歩…大学と人材」には、保護者の方に集まっていたいただき、(株)カッシーナ・イクスシー執行役員の森田多恵子氏を講師に、企業のトップマネジメントの立場から講演をいただきました。宮島さんの印象はいかがでしたか？

**宮島** 学生時代のお話や2回もの転職などご自身の経験を交え、女性の社会進出や部下の育成の仕方といった人材育成について、非常に示唆に富んだお話を伺いました。保護者には、人材育成の現場の声を聞く機会があまりなく、お話すべてが新鮮でした。できましたら、今後こういう機会を設けていただければありがたいですね。

**古賀** 「夏・進歩」は、これから人材育成に大学がどう貢献していくか、どう方法をとれば、一番効果が出せ、自信を持って熊本県立大学の人材として送り出せるかを、教員自身が考え、保護者の方にも応援をお願いしたいと思い企画しました。



夏

さて、私たちは、学生が元気な大学づくりを目指しています。「秋・進歩」は、第一部では「大学と活力」というテーマで、野村ホールディングス(株)の池上浩一さんに講演していただきました。第2部では、パネルディスカッションとして、KKTアナウンサーの本橋馨さん、そして、本学の卒業生でもある2003ミスユニバース日本代表の宮崎京さんと和洋女子大学副学長の坂本元子先生にお話をいただきました。参加された山口さん、どうでしたか？

**山口** 第1部、第2部ともに興味深かったのですが、特に、第2部の本橋馨さんのお話に共感しました。私自身、大学に入る前はいろんなことに挑戦しようと意気込んでいたのですが、実際入ってからは勉強や単位をとるのに苦労していたので、本橋さんの「人生はらせん階段。前に進めば必ず昇っている」という言葉に元気をいただきました。

**古賀** 「秋・進歩」は白亜祭の初日に開催しました。これまでの学園祭は、お祭り中心でしたが、これからは少しアカデミックな大学らしさを出すべきということで、白亜祭の実行委員会にも協力していただき、今回の企画に結びつきました。今後の学園祭でも、学生の活力、大学らしさを出せる企画を続けていただきたいと思います。

シンポジウムの締めくくりとなる「冬・進歩」は、「大学と社会」というテーマ



のもと、各学部の教育研究活動の特色を生かしたフォーラムを開催し、また、本学の客員教授で前小国町長の宮崎暢俊先生に、6期24年にわたって町長を務められた経験から特別講演を行っていただきました。記念パーティーは、同窓会である紫苑会の方々のご協力を得ながら、学食で開催しました。戸次さんには、企画の段階からご参加いただきありがとうございました。その様子をお話いただけますか。

**戸次** 私は、記念パーティーの準備で、シンポジウムには残念ながら参加できませんでしたが、参加した同級生からは、「ハイレベルで良かった。」「勉強になった。」「参加の価値があった。」という声を聞きました。卒業生も一緒に参加できるこういう機会を作っていただけたのは非常にありがたいですね。パーティーでは、在学生の皆さんが料理の盛りつけなどに参加してくれて、一緒に手作りの60周年の記念パーティーができたということが感激でした。これまで勉強してきたこと、管理栄養士として仕事をしてきたことで、お役に立てて良かったと思っています。

**古賀** おかげさまで、記念パーティーには230名もの方にご参加いただき、料理もかなり好評でした。同窓会のご協力に感謝申し上げます。

### ～熊本県立大学への思い・ 新入生へのメッセージ～

**古賀** これから本学は、60年に及ぶ歴史と伝統のうえに、新たな一歩を踏み出すわけですから、その1番の担い手は学生の皆さんであります。そうした節目の年に、後藤さんは、環境共生学部の食健康科学科に入学されますが、大学に入るに当たりどのような抱負を持っていますか？

**後藤** 私は、高校2年生の時にオーストラリアにホームステイに行きました。大学に入ってから、協定校にホームステイに行ったり、ホームステイの受け入れもしてみたいです。国際交流を通じて、海外の食文化を知ったり、日本の食の良さを改めて見直すことにつなげたいと思っています。



秋

〈次のページへ続く〉

**古賀** 協定校である祥明大から短期研修団向けホストファミリーの募集も行っています(12ページ参照)ので、ぜひ、お願いします。

山口さんには、これまで大学でいろんな活動に参加してもらってきました。それを通じて得たもの、後輩に伝えたいということがあれば、お願いします。

**山口** 何にでもチャレンジすることが一番。やってみないと、何も分からないし、先に進みません。大学をうまく利用するくらいの気持ちでやっていかないと、せっかくの4年間がもったいないと思います。いろいろなことに参加し、経験することで、大学を知ることにもなりますし、自分が何をやりたいのかということも見えてくると思います。

**古賀** 大学では、先生方から学ぶだけでなく、先輩や同級生はもちろん、後輩からもいろいろなことが学べます。新入生の皆さんには自分だけの殻に閉じこもって勉強するのではなく、多くの人と語らう機会を設けて、サークル活動にも参加してもらいたいですね。

宮島さんは、いかがお感じですか。

**宮島** 私は、大学時代、尺八をやっていました。当時、九州の邦楽学生連盟があり、九州管内の学生同士のつながりがサークルを通してできました。大学時代のサークルは高校とは全く違いますし、高校までの狭い行動範囲が一挙に広がります。

**山口** 熊本県立大学の伝統的なサークルは人数が少なくなってきたので、新入生に盛り上げてもらいたいですね。

**古賀** 戸次さんには、卒業生として大学へのメッセージをいただけますか。

**戸次** 大学の発展を希望します。そのためには、同窓会としても、学生の皆さんや後援会をはじめ保護者の方々と連携し、大学に貢献できたらと考えています。教育面の支援や就職等の支援も含めて卒業生にできることは精一杯やっていこうと思っています。

**古賀** 創立60周年を本学の歴史の一つの節目として、これからも教職員一丸となって努力していきますので、ご協力をお願いします。本日はありがとうございました。



## メモランダム “創立60周年記念事業”

“活力ある熊本と人、そこに求められる学問”を統一テーマとした、春夏秋冬の年4回、創立60周年記念シンポジウム「春夏秋冬…進歩」を開催したほか、高大連携“SUMMER COLLEGE”及び企画展示“百科事典の東西”を開催し、多くの皆様に参加いただきました。

### ◆「春・進歩…大学と学問」

4月28日(土)、本学大講義室

本学への入学を志す学生に、様々な分野にチャレンジする本学の教員・学生の取組を紹介。高校生を中心に約300人が参加。

### ◆「夏・進歩…大学と人材」

6月23日(土)、本学大講義室

子育てをしながら活躍する女性を講師に迎え、企業のトップマネジメントの立場からキャリア形成について講演。在学生の保護者を中心に約250人が参加。

### ◆「秋・進歩…大学と活力」

11月10日(土)、本学大講義室

“世界の動向、自分の行動”をテーマに、「大学生がいかに進路を定めていくか」について考えるため、各界で御活躍の方々による講演・パネルディスカッションを実施。本学在学生を中心に約240人が参加。

### ◆「冬・進歩…大学と社会」

2月9日(土)、本学大講義室他

“これからの社会における大学の役割”をテーマに、第1部 学部フォーラム、第2部 特別講演という構成で開催。約700人が参加。学生食堂で開催した記念パーティーには、卒業生を中心に230人が参加。

### ◆高大連携 “SUMMER COLLEGE”

8月4日(土)・5日(日)

高等学校と大学との連携をより深めるために、高校生等が大学の教育・研究に触れる機会として多種多様な講座を、2日間で計42講座開講。県内外から約500人が受講。

### ◆企画展示 “百科事典の東西”

平成19年10月～平成20年4月

18世紀の日本及びフランスで発刊された2つの百科事典、「和漢三才図会」と「Encyclopédie (百科全書)」を当時の時代背景とともに紹介。

### ◆歴史的資料収集事業

「冬・進歩」では、同窓生の皆様のご協力により、本学の歴史を物語る写真展「熊本県立大学回顧展」を開催。今後、図書館に本学の歴史的資料展示コーナーを設けるとともに、収集事業を本格的に展開。

### ◆全学共通テキスト「熊本学のススメ」の編集

本学の学術研究、地域連携の成果を教科書にまとめ、発刊。4月から1年生全員に配布。



# 地域に生きる！地域に学ぶ！

大学の理念の1つとして「地域性の重視」を掲げる熊本県立大学。地域実学主義の実践例など、本学の地域における教育研究活動を紹介します。

## 「なごみの里づくり・ふれあいの森里地里山再生プロジェクト」

熊本県立大学では、自治体・企業等と協定を締結する「包括協定制度」を設け、地域における活動や調査・研究などの様々な分野において、相互に連携・協力して地域の課題解決に取り組んでいます。

玉名郡和水町では、本学と富士電機システムズ(株)及び和水町とが連携して地元の里山再生に取り組む「なごみの里づくり・ふれあいの森里地里山再生プロジェクト」を実施しています。

平成19年1月から始まったこのプロジェクトでは、本学の教員や学生、地元の方々や富士電機社員の方々が協力して里山再生の取組を行ってきました。当初、人の手が入らず荒れていた里山でしたが、草刈りや不要木の伐採、棚田の整地、尾根の道拓き、階段づくりなどが行われ、徐々に整備された美しい里山へと姿を変えつつあります。

今後も定期的・持続的な里山再生活動を続け、将来的にふれあいの森を誰もが親しめる身近な里山にしていくことを目標に活動していきます。



## なごみの里・ふれあいの森は、フィールドワークなどの様々な実習の場



平成19年9月には、本学が進める『現場に学び実践力を得る教育活動』の一つである“[「もやいずと」育成プログラム]をふれあいの森で行いました。参加した30名前後の学生は、2泊3日の宿泊研修の中で里山再生活動に汗を流し、その活動をまとめて発表を行いました。

平成19年12月には、環境共生学部生態・環境資源学専攻<sup>(\*)</sup>で学ぶ学生全員が参加する「環境共生学部エクスカージョン(臨地実習)」がふれあいの森をフィールドに1泊2日の日程で実施しました。学生たちは、里山において地元の方々や教員の指導を受けながら、ナタの使い方や植生調査、測量のやり方を実際に体験しながら学びました。

※生態・環境資源学専攻は平成20年4月から環境資源学科になりました。



環境共生学部 准教授  
井上 昭夫

「なごみの里プロジェクト」による里地里山の再生には、某テレビ番組で行われている村づくりと同様の楽しみがあると思います。しかし、テレビを通して観るのと、実際に自分が体験するのでは、その楽しさは大きく異なります。里地里山の再生とは、時間的にも空間的にも大きなスケールでの「ものづくり」であり、その本当の楽しさは、実際に自分が汗水を流しながら「ものづくり」を体験してみないことにはわかりません。これからも研究室の学生達と一緒に、なごみの里プロジェクトの活動に積極的に参加し、地域の方々と協働しながら里地里山の再生を楽しんでいきたいと思っています。そして、この活動を通して、教室の授業では教えられない様々なことを学生達が学んでくれることを願っています。」

●プロフィール  
九州大学大学院農学研究科  
(修士課程)修了。博士(農学)。  
鳥取大学農学部勤務を経て  
平成19年4月から現職。

## 環境共生学部エクスカージョンに参加して

環境共生学部 坂本 晋悟さん



「熊本でも竹林が拡大していると話を聞いたことはありませんでしたが、荒れた状態で拡大していることに驚きました。今回のエクスカージョンのようにボランティアの形でも、竹林の拡大を抑えることが出来れば素晴らしいと思いました。」



留学中の3人

(左から大谷瑛美さん、成富俊介さん、大谷優美さん)

# 世界に伸びる！

本学の協定校の一つであるアメリカ合衆国・モンタナ州立大学ビリングス校へは、現在3人の学生が約1年間の予定で留学中です。その中の一人、総合管理学部大谷優美さんに、現在進行形のホットな留学生活について聞いてみました。

総合管理学部 **大谷 優美** さん

(モンタナ州立大学ビリングス校 派遣留学生)

## Q アメリカに留学しようと思ったのは、なぜですか？

私が留学を意識し始めたのは県立大学への入学が決まったときからでした。やっと大学入試が終わり、何かすごいことをしたい、新しい世界をみてみたい、というむずむずした思いが自分の中に常にありました。ちょうどその時にモンタナ州立大学への夏期研修(ESLプログラム)のことを知り、参加することにしました。3週間の研修はあっという間でしたが、この研修を通して、私はここでまだまだやれることがあるのではないかと、という希望が自分の中に芽生え、次期留学生への応募を決めました。

## Q モンタナ州立大学での授業はいかがですか？

私は、秋 semester に社会学、リーディング、コミュニケーション、ヨガのクラスなどを履修しました。ここではほとんどのクラスが30人以下の少人数制で、発言を求められる機会が多くあります。また、クラスの多くで、宿題やレポート、小テストが毎回課されるため、こなすのにひと苦労です。今学期は、パブリックスピーキング、専門であるマーケティング、スノーボードなどのクラスを履修しています。この学校には幅広い年齢層の学生が在籍していて、私が履修しているビジネスのクラスでも、職務経験のあるずっと年上の人たちから現場の様子について聞くことができるのでとても刺激的です。また、1月からは週に2回、ダウンタウンにある現代美術館でインターンシップをしています。ここのオフィスで働いているのは8割が女性で、雰囲気がとてもよく、いい人ばかりです。今は年に一度開催されるオークションの準備を手伝っていて、とても楽しいです。

## Q 寮での生活はどうですか？

私はペトロホールという、主に1・2年生が住む寮でルームシェアしています。私達のフロアは全員が女子で、他のフロア

に比べて格別賑やかです。部屋は16畳ほどで広いとはとても言えませんが、洗面台、ベッド、勉強机、クローゼットなどの家具は揃っており、居心地も良いです。各フロアには小さなキッチンも設備されていて、休日に友達とご飯を作って食べたりしています。校内にはシアターやゲームセンター、ジムもあり、放課後や週末のアクティビティも充実しています。



寮(ペトロホール)

## Q モンタナ州ビリングスはどんなところですか？

ビリングスはモンタナ州最大の都市ですが、それでも人口20万人余という田舎町です。大都市のような賑やかさや華やかさはありませんが、だからこそ都会にはないような人のぬくもりが残っている町でもあります。モンタナ人はシャイでマイペー



ビリングス(リムロックの丘からの風景)

スなカウボーイ気質の人が多く、一見関わりづらい印象もありますが、一度知り合うとフレンドリーで親切な人が多いです。私はいつ

もインターンシップ先へ行くときにバスを利用するのですが、毎回利用するうちにバスの運転手さんも私のことを覚えてくれ、最近では私の顔を見るとバス停でない所でも「乗るんだろ?」と言って止まってくれます。

# 留学生に聞きました

Q 留学して最も良かったと思うのは、どんな点ですか？



クラスメイトとともに

この留学を通して、さまざまな考えやバックグラウンドを持った本当に多種多様な人達と出会うことが出来ました。ネイティブアメリカンの部族の出身で子どもを育てながら学校に通う私と同い年のシングルマザー、医者になって母国で貧困に苦しむ子どもたちを助きたいという夢をもつインドからの留学生、ケニアやバングラディッシュでボランティアの経験がある人達、将来世界で活躍するべく英語と並行して第3ヶ国語をマスターする留学生仲間たち…。彼らから教わったことは計り知れないのと同時に、自分には何があるだろう、これから何が出来るだろうと自分自身を見つめ直す良いきっかけになりました。そしてこれから達成すべき新たな課題が見えてきたように思います。彼らとの出会いは留学したからこそ得られた、私の財産です。

Q 県大生へメッセージをひとこと

私はもともと机で勉強するのが苦手で、高校のテストでは本当にひどい点数を取っていました。日本にいたときはテストでいい点を取ることが勉強のすべてだと思っていて、今振り返ると自分の世界はとても狭かったように思います。実際こちらに来てからは、毎日の生活そのものが「勉強」です。自分が常識と思っていたものが通用せず、毎日何かに失敗し、痛い思いをし、その度に自分自身や周りの世界に新しい発見がありました。文化の違いのために無意識に言ったことで相手を怒らせてしまったり、当然だと思っていたことがうまくいかなかったり、知らなかったことで大損をしたり…キャンパス内にとどまらず、買い物の仕方、バスの乗り方など、生活の中で出会うこと全てが勉強でした。これらは日本でただ机に向かっていても絶対に学べなかったと思いますし、20年間生きてもまだ一からスタートしなければならないような世界があったなんて気付きもしなかったと思います。机上の勉強だけが勉強なのではない、日本を一歩外に出るとまだまだ知らない世界がたくさんあるということ、皆さんにも気付いてもらいたいですね。

## 【協定校紹介】

### ■モンタナ州立大学ビルングス校(アメリカ合衆国)

設立：1927年

所在地：アメリカ合衆国モンタナ州ビルングス

学生数：約4,200人

学部：ビジネス、文理等

## topic

## 本学留学生が成績優秀者に！

モンタナ州立大学ビルングス校に留学中の成富俊介さん(文学部英語英米文学科)が、2007年秋学期の成績優秀者として同校から表彰されました。しかもGPA4.0(いわゆるオールA)という最高得点を獲得しての表彰です。Congratulations！

### 【受賞のひとことー 文学部 成富 俊介さん】

成績優秀者に選ばれたと知ったときは、とても嬉しかったです。それと同時に自分の努力がきちんと評価されたということがわかり、達成感を感じることが出来ました。ホストファミリーや先生からも「よく頑張ったね。おめでとう。」と言われ、自分の自信にもつながりました。

勉強面で苦労したことは、授業で先生の話す速度が速くて十分に理解できないときがあったということ、予習の多さです。しかし、今思うとこれらのことが自分にやりがいを与えてくれたのだと感じます。

今は春学期の途中ですが、今学期も秋学期以上に頑張りたいと思います。この留学生生活を有意義なものにするためにも、悔いの残らぬよう、日々精進していくつもりです。



サッカーの仲間とともに

熊本県立大学では、協定を締結した企業等の第一線で活躍する方を講師に迎え、大学が開講する正規の科目を担当していただく「協力講座」を実施しています。

平成19年度は、肥後銀行、地域流通経済研究所のご協力による「地域流通経済論」「現代社会と企業」、また、熊本日日新聞社のご協力による「マスメディア論」の3講座を開講しました。

平成20年度から、新たに、九州電力熊本支店のご協力で「エネルギーと社会」、NTT西日本熊本支店のご協力で「情報と社会」の2講座を加え、全5講座を開講します。

新たに担当いただく講師の皆様に意気込みを聞きました。

\*協力講座は、授業公開講座として県民の皆様も受講することができます。

## 「エネルギーと社会」



●講師

九州電力(株) 熊本支店  
企画管理室企画管理グループ長  
伊久美 早利 さん

### 【講師プロフィール】

熊本県人吉市出身、昭和61年熊本大学工学部卒業後、九州電力入社。50万ボルト変電所の建設や電力システムの運用・監視などに関する業務に従事。平成18年から熊本支店企画管理グループ長。

近年、原油価格高騰や世界的なエネルギー消費量の増大などの資源エネルギー問題や、温暖化や大気汚染などの地球環境問題が深刻化している中、子どもたちの未来のために持続可能な社会を構築していくことが、現代社会の大きな課題です。

本講義では、「現代社会におけるエネルギー問題とは何か?」をテーマとして、「エネルギーの安定確保の問題」や「地球環境問題などを踏まえたエネルギーの環境適合性の問題」などについて、電気事業の視点からアプローチし理解を深めます。また、簡易発電機を作る理科実験や火力発電所の見学を通じ、電気というエネルギーを体感してもらうとともに、九州や熊本に関連するデータ、事例を引用しながら、電気を身近なものとして感じていただきたいと考えています。

皆さんが、エネルギー問題を自分の問題として捉え、今後どのようなエネルギー社会を目指す必要があるのか、そのために何ができるのかを、自ら気づき、考え、実践できることを目指したいと考えています。

## 「情報と社会」



●講師

NTT西日本熊本支店長  
熊本 敏彦 さん

### 【講師プロフィール】

福岡県出身。昭和55年九州大学工学部卒業後、日本電信電話公社入社。平成6年福岡支店設備サービス部長、平成14年人事部人事第二部門長を経て平成18年7月からNTT西日本熊本支店長。

NTT西日本熊本支店では、平成14年から経営理念として「地域密着」を掲げ、様々な地域貢献活動を展開してきました。「地域」とは「お客様の声を聞き」、「密着」とは「その声にお応えすること」。地域に根ざし地域の皆様とともに活動するという事業の原点に立ち返り、地域の皆様から愛され、信頼される企業をめざした様々な取り組みを行っています。

「情報と社会」は、全学部・全年次共通の教養科目として、4月から週1回行います。学生・県民の皆さんが少しでも情報通信に興味を持ってもらえるように、情報通信の歴史や最近の動向、課題、活用例や将来像について、わかりやすい講義内容にするため、具体的な事例紹介やNTT設備見学も実施します。また、NTTドコモ・NTTデータなどのNTTグループによる講義も予定しています。

「本講座を学ぶ学生の方等に現状の社会基盤である情報通信を理解して頂き、将来実社会において、大いに活躍して欲しい」と考えています。



# 活躍する卒業生

さまざまな分野で活躍する熊本県立大学の卒業生を訪ね、現在のお仕事や、ご自身の学生時代について、語っていただきます。

「地域づくりを国際的、環境的な視点で」を基本姿勢に、地域で活躍できる人材育成を目標とした活動を展開しているNPO法人「コミネット協会」。今回は、コミネット協会理事として活躍する平江さんにお話を伺いました。

NPO法人「コミネット協会」理事  
平江 望 さん



## Profile プロフィール

平成18年3月、熊本県立大学大学院環境共生学研究所(博士前期課程)修了。私立高校非常勤講師(生物)を経て、現在に至る。

### 子どもたちを対象とした 自然体験型の環境教育



NPO法人「コミネット協会」の理事として、持続可能な地域づくりや子どもたちを対象とした自然体験型の環境教育に取り組んでいます。コミネット協会は、環境省が設置する「九州パートナーシップオフィス(EPO九州)」の運営団体となっており、オフィス常勤のコーディネーターとして、九州地方における地域での環境パートナーシップづくりの支援に取り組んでいます。つい先日は、九州地方における環境政策のセミナー・ワークショップを開催したところです。

### きっかけは、 大学時代のサークル活動

きっかけは、大学3年生の時、サークル活動の一環として環境教育実践者のミーティングやコミネット協会の活動に参加したことです。私は昔から環境と教育に興味を持っていましたので、その両方を実践できる仕事(団体)に出会えたことは本当に運が良かったと感じています。

### 机上の論理だけでなく、 現場で学べたフィールドワーク

地球をとりまく環境問題は非常に複雑で、広い視野をもって、あらゆるステークホルダー(利害関係者)とともに解決していく必要があります。その意味において、学生時代、環境共生学部で環境に関する幅広い観点と分野を学べたことは、私にとって大きな財産になっています。また、フィールドワークなどの講義において、環境問題を机上の論理だけでなく、現場で学べたことも、自分の経験を通して自分の言葉で一般の方々に環境問題をわかりやす

く伝える上で役立っています。

### 環境保全活動の大切さや楽しさを 伝えていきたい

現在の仕事を通して、これからも多くの人に出会い、一緒に行動を起こしてくれる仲間を増やしていくことが今後の目標です。特に、環境への関心の薄い方々に対しても環境保全活動の大切さや楽しさを伝えていきたいと考えています。

### 自ら行動を起こし、 多くの経験を積んでほしい

学生の頃は自分が何をしたいのか苦悩することがありました。しかし、授業以外の活動に参加し、いろいろな知人を増やしたり、様々な経験を積んだりする中で、将来に対する方向性が定まってきました。皆さんも学生時代に自ら行動を起こし、多くの経験を積んでください。そうしていく中で、きっと自分に合った仕事に出会うチャンスに恵まれると思います。

# 研究活動紹介

地域に根ざした様々な研究活動を行う熊本県立大学の教授陣。  
今回は、宇城地域をフィールドとして、地元との協働により  
地域活性化のための方策を探る明石照久准教授の研究を紹介します。

## 「宇城地域における国内版ワーキングホリデー導入のための課題研究」



総合管理学部 准教授  
**明石 照久**

### ●プロフィール

神戸大学大学院法学研究科博士後期課程修了。博士(法学)。  
神戸市役所勤務を経て、平成18年4月から現職。

### ▶宇城地域の農業活性化方策を探る

この研究では、宇城地域を取り上げ、地域特性に適合した地域活性化のあり方を考えていくことにしました。宇城地域は、熊本都市圏に近い場所にありながら、豊かな自然に恵まれており、農業も盛んです。しかし、近年、中山間地を中心に農業の持続可能な発展が危惧されるような状況も見受けられるようになってきています。農業の振興は地域の持続可能な発展のための重要な要素であり、また、地域環境の保全の面でも大きな期待が寄せられています。

わが国農業は、農家人口の減少、農業従事者の高齢化、後継者不足など厳しい状況に置かれていますが、反面、新規就農希望者など農業に対して強い関心を示す人々が近年増加傾向にあることも確かです。しかし、現実には就農希望者や農家体験を希望する人々と農家との接点となる仕組みはほとんどなく、都市住民が農業に身近に接することは非常に難しいのが実情です。

### ▶宇城地域とワーキングホリデーの仕組み

このような状況を背景に農業に関心を持つ都市住民と農家との交流を通して地域農業の活性化を進める一つの方策として、近年、農家版ワーキングホリデー制度が注目を集めています。そこで、この仕組みを宇城地域に導入することの適否について研究することにしました。農家版ワーキングホリデー制度については、都市住民と農家との交流促進、さらには農家支援の方策として、岩手県遠野市、長野県飯田市、宮崎県西米良村などで先進的な取り組みが進められています。

今、都市住民の間では農業に対する関心がかつてなく高まっていますが、新規就農を目指す人から農家の生活を体験したいという人まで、その思いは必ずしも一様ではありませんし、世代的にも団塊世代から若年層までの多様な構成になっています。このような幅の広いニーズに応えながら都市住民の農業理解を支援するための仕組みとして、ワーキングホリデー制度が非常に優れていることは先進地の事例からも明らかです。そして、宇城地域には、熊本都市圏に近いという特性を活かすことによって、遠野市、飯田市、西米良村などとは違うタイプの「気軽に農業を体



宇城市豊野の山あいの里

験できる仕組み」としてのワーキングホリデー制度が根付いていく可能性があります。

### ▶ワーキングホリデー体験から見てきたこと

ワーキングホリデーの仕組みを理解するには体験が一番と考え、平成19年11月9日から11日までの3日間、私は長野県飯田市のワーキングホリデーに参加しました。飯田市は長野県南部の風光明媚な町で、名古屋から高速バスで約1時間半、東京新宿からは約3時間の場所に位置しています。南アルプスの雄大な山並みが広がる景観はまさに圧巻でした。

私がお世話になった農家は、約14ヘクタールの果樹園を営む専業農家でした。この農家では、柿、りんご、梨、桃を栽培しており、手入れの行き届いた果樹畑が一面に広がっていました。私が実際に行った作業は干し柿作りでした。



オレンジ色が目に鮮やかな「柿すだれ」

柿の実を収穫し、皮を剥いた柿の実を紐に吊るしていく作業です。初めての経験でしたが、作業の要領を教えてくださいながら作業に取り組みました。

農作業の合間には、休憩と食事の時間がしっかりと

組み込まれており、農家のご主人や家族、さらには東京方面から参加していたワーキングホリデー参加者の皆さんと楽しい交流のときを過ごすことができました。東京からの参加者2名は、60歳代の方でしたが、5年越しで飯田に来ていたとのことで、興味深い話をお聞きすることができました。飯田市のワーキングホリデーの参加者には、若い女性が多いと聞いていたのですが、シルバー世代のリピーターも結構多いようでした。

日常生活を離れて農家に宿泊し、農作業を体験することは、私にとって非常に新鮮で面白く刺激的な体験でした。また、農家の皆さんや他の参加者との交流からも得るところは多かったように思います。リピーターとして何度も足を運ぶ人が多いということが素直に納得できました。

### ▶宇城地域における今後の展望

飯田市のワーキングホリデーに参加して、まず、時代の求めているものを巧みに取り入れた仕組みであることに感心しました。熊本県庁の職員を対象にしたアンケートからも、ワーキングホリデーへの関心が予想外に高いことが分



南アルプスに見守られて育つ「桃の木」

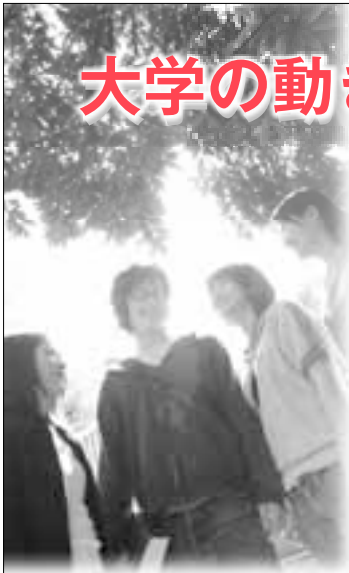
かりますが、実際には農業や農家の暮らしを体験できる機会はほとんどありません。その意味では、安心して農家体験ができる「ワーキングホリデー」という仕組みが飯田市役所と地域の農家によって形づくられていることの意味は非常に大きいと思います。

ただ、飯田市はやはり遠く、「住んでいるところの近くでこのようなことができたらうれしい」という東京からの参加者の言葉には共感を覚えました。宇城地域は熊本都市圏の近くにあり、日帰りでも参加することも可能ですし、福岡方面からの交通も至便です。例えば、宇城市豊野地区は干し柿作りの盛んな地域であり、仕組みさえ出来れば、今後、飯田市のようなワーキングホリデーの発展が十分に期待できます。県庁職員のアンケートからも「気軽に参加できる」ことが重要な要素としてあげられています。今後の実証実験などを通して、宇城地域においてワーキングホリデー制度が根付き、地域農業の振興と都市住民の「農村で過ごしたい」という気持ちをうまくつなぐ接点が形づくられることを大いに期待しています。



たわわに実った飯田の「りんご」

# 大学の動き



## ■平成20年4月から大学院文学研究科博士課程を開設

熊本県立大学では、深い学識を具えた研究者の育成と、高度に専門的な職業人の養成を目的とした、大学院文学研究科博士後期課程(日本語日本文学専攻)を開設しました。

これを記念して、平成20年3月1日、本学大講義室を会場に、開設記念シンポジウム『日本語日本文学研究の未来－博士課程の目指すもの－』を開催するとともに、学術奨励賞の実施<sup>(\*)</sup>について、発表しました。

※学術奨励賞の応募方法等、詳しくは、本学ホームページ(<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>)をご覧ください。

## ■菊池市、大津町と包括協定を締結

本学は、平成19年11月22日に熊本県菊池市と、また、平成20年3月3日に熊本県大津町と包括協定を締結しました。

今後は、それぞれの市町と包括的な連携のもとに、様々な分野において、相互に協力し課題解決に取り組んでいきます。

本学と包括協定を締結した自治体は、阿蘇郡小国町、球磨郡あさぎり町、玉名郡和水町、菊池郡菊陽町、天草市、水俣市、宇城市、菊池市、大津町の9市町となります。

## Information

### ●授業料の納付方法について

授業料の納付方法は、ご指定の預貯金口座からの自動引き落としとなっています。本年度の引き落とし日及び金額は、下記表のとおりです。引き落とし日が近づいてきましたら学内掲示板等でお知らせしますが、預貯金口座や口座残高についての確認をお願いします。

口座引き落とし日以降の納付は納付書によるお振り込みとなり、ご自身で振込手数料をご負担いただくこととなりますので、ご注意ください。

区分	金額	引き落とし日
第1期 (4月～7月)	178,600円	4月28日(月)
第2期 (8月～11月)	178,600円	9月29日(月)
第3期 (12月～3月)	178,600円	1月28日(水)

※新入生については、別途お知らせします。

問い合わせ先▶総務課 TEL:096(383)2929 内線230

### ●ホストファミリー募集!

6月下旬から1週間程度、本学の協定校である韓国祥明大 大津校 天安校 日本語日本文学科の研修生(15名程度)を受け入れます。それに伴い、研修期間中のホストファミリーを募集します。

※ホストファミリー：自宅に研修生を滞在させるなどしていただく家庭。(平日の夕方以降及び土日にお世話していただくことになります。)

★研修生は日本語を勉強していますので、言葉に関する心配はほとんどありません。

★ホストファミリーの方には後援会より助成金が出ます。

★詳細及び登録用紙は、本学ホームページにも掲載しています。

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>

問い合わせ先▶学生支援課 TEL:096(383)2929 内線205



## ■『高等教育コンソーシアム熊本』会長校に本学が選任

熊本県内の高等教育機関で構成する「高等教育コンソーシアム熊本」の理事会が、平成19年12月5日に開催され、次期会長校に本学が満場一致で選任されました。

任期は、平成20年4月から平成22年3月までの2年間です。

米澤和彦学長は「熊本の地域、教育の発展のために頑張っていきたい」と挨拶しました。

なお、平成20年4月から放送大学熊本学習センター、県立技術短期大学校が入り、加盟校は15になりました。

## ■『くまもとさんち(産地)の食育ウィーク』

熊本県立大学では、平成18年12月に策定した「くまもとさんち(産地)の食育ビジョン」に基づき、食に対する正しい知識向上のため、食品の安全性、日常生活における朝食の重要性、健康になる食事バランスなどの情報提供に取り組んでいます。

食育ビジョン策定1周年となる平成19年12月の一週間を「くまもとさんち(産地)の食育ウィーク」と定め、食に関する取組を行いました。

※写真は月出小学校児童と本学学生を対象に12月23日に実施した熊本産食材を使用した体験実習。

## 後援会便り

後援会とは、●本学在学生の保護者またはこれに準ずる方を会員として組織されています。

●大学の教育事業を後援し、大学と家庭及び社会との協力によって、大学教育の成果をあげることを目的としています。

### 【後援会の事業】

下記の4つを中心に学生の活動全般を支援しています。

《就職対策事業》・就職対策講座として公務員講座、二級建築士講座、簿記講座等を開催。

・適職診断プログラムの実施、各学部による就職支援事業への助成、OB・OGと連携した就職支援事業の展開。

《学生活動支援事業》・各サークルの活動費の一部、全国大会出場経費等の一部を助成。

・学生のリクエストに応じ図書を購入し、図書館へ配置。

《国際化推進事業》・海外留学・研修期間に応じて経費の一部を助成。

・留学対策講座 英語圏の国に留学する際に必要な TOEFL 対策。

《教育研究助成事業》・学生共同自主研究助成(学生グループが自発的に行う研究経費の一部を助成)。

・国内学生大会等出場助成(インターゼミナール等への出場旅費の一部を助成)。

### 【入会・会費納入】

新入生へは、本学合格通知の際に、後援会の説明及び入会・会費納入のお願いをしています。

また、途中年次であっても、随時入会を受け付けていますので、お気軽にご相談ください。

### 【総会のご案内】

例年、6月下旬の土曜日に、本学において後援会総会を開催し、前年度の事業報告・決算、当年度の事業計画・予算について会員の皆様にご審議いただいています。5月頃ご案内させていただきますので、会員の皆様のご出席をお待ちしています。

# ☆ 生き 生き 元気種 (だね)



このコーナーでは、サークル活動をはじめ、地域で活躍する県大生の声をお届けします。



**私** たちダイビング部は、熊本大学ダイビング部と合同で「世界中の水のある所、どこでも潜れるダイバー」を目指して日々活動しています。監督として、ダイビングのインストラクターの方に指導していただき、プールでのトレーニングや、海での海洋講習を通して、ダイビングのライセンスの取得も行っています。普段は天草の下田や牛深に潜りに行き、長期の休みには合宿を行い、鹿児島や沖縄の美しい海に触れると共に自然の美しさを肌で感じ、活動を楽しんでいます。また天草や沖縄で撮影した写真を通して、海の素晴らしさや水中環境を多くの方々に知ってもらうと共に、自分たちの活動を外部の方々に知ってもらうために、写真展を行ったりもしています。



**ダイビング部** 主将 環境共生学部 3年 友口 理央 さん

## ～海や川の水環境を守ろう！ダイビング部の取組～

**写** 真展以外にも外部での活動を行っており、その一つとして、数年前から白川漁協の方々に協力して、近年、鮎が生息するほど再生されてきた白川の水環境を守るため、魚道の掃除や鮎の稚魚の採取、放流などの手伝いを行っています。さらに、白川周辺の小学校の生徒を対象に、自分たちの身近にある白川をよく知ってもらい、環境について少しでも考えてもらえるように、総合学習の時間を利用して授業を行ったりもしています。



**そ** の他にも普段良く潜りに行き、お世話になっている天草の下田温泉一帯で開かれる下田温泉祭において、恩返しの意味も込めて毎年下田温泉祭の目玉イベントである「ブリのつかみ取り大会」での杭打ちやライフセービングのボランティア、お湯かけ神輿への参加などを行っています。また、去年の学園祭では、県立大の学生にも自分たちの生活している熊本の素晴らしさを少しでも知ってもらうために、大学内に特設プールを設置して、下田温泉祭の目玉イベントである「ブリのつかみ取り大会」を行いました。その他にも、毎年開催されている、天草国際トライアスロンにおいて、ライフセービングのボランティアとして参加したり、環境や生態系の分野などで活躍されている講師の方を招いて、講演会を行ったりしています。



▲白川下流域 鮎が通る魚道の岩を取り除く活動

**私** たちダイビング部のフィールドは海だけだと思われがちですが、私たちは海だけにとどまらず、川や水源など様々な場所において、それらに関わる地域の人々と交流を持つことで、自分達の活動を人々に知ってもらうと共に、海の美しさ、素晴らしさというものを多くの人々に知ってもらうことができるよう、今後も活動していきたいと思っています。



◀下田温泉祭 「ブリのつかみ取り大会」での杭打ち



熊本県立大学文学部・大学院文学研究科主催

# 「徳富蘆花生誕140年記念

熊本県立大学文学部では、人文学の分野において、さまざまな情報発信に努めています。本年度は、郷土・水俣出身の文学者である徳富蘆花を集め、集中的に取り上げます。本年で生誕から140年を迎える徳富蘆花は、文学者としての高評価にもかかわらず、現在では夏目漱石らと比べて知名度が低い感があります。そこで、まずは6月14日、本学で、蘆花の人物・歴史、作品の面白さなどを再認識し、また、郷土の文化遺産である大江義塾跡(徳富記念園)や水俣の生家跡などの活用法、菊池との関わりなどについて語り合うシンポジウムを開催します。パネリストは、研究者、ジャーナリストなど、多彩な顔ぶれです。学生や県民の方々には蘆花への関心を高める機会にさせていただきたいと思っております。なお、今秋10月25日(蘆花生誕の日)には、同じく本学で、蘆花研究のスペシャリストである大学教員や文学研究者を中心に、蘆花の文学を深く掘り下げるシンポジウムも開催します。また、本学学生は、蘆花に関する資料研究にも取り組んでいきます。

『自然と人生』を読んで、郷土を思うもよし、『不如帰』を読んで、韓流ブームにも負けない悲劇の純愛に浸るもよし、今年一年、みなさんと蘆花を学んでみませんか。

問い合わせ先▶地域連携センター TEL:096(383)2929 内線500

参加  
しませんか



## シンポジウム開催

場所

熊本県立大学大講義室

日時

平成20年6月14日(土)  
午後1時30分〜



### 「不如帰(ほととぎす)」

徳富蘆花著 岩波文庫

## おすすめの一冊

BOOK



文学部 教授  
大学院文学研究科長 半藤 英明

郷土・水俣出身の文豪、徳富蘆花による純愛の悲劇が小説『不如帰』です。若き夫婦の純愛が運命のままに引き裂かれる悲劇のストーリーは、明治30年代のベストセラーとなりました。

主人公は、川島武男と浪子。育ちの良い好青年の武男と、継母に愛されずとも、真心ある娘に成長した浪子は、他人もうらやむ相思相愛の理想的な若夫婦でした。が、二人の運命は武男を妬み、浪子に横恋慕する抜け目のない男、千々岩や、武男を思う娘のため、策謀をめぐらす山木らによって、浪子の肺病を機に絶望へと向かって走り出します。そして、訪れる悲しい結末。近年は、セカチュー(「世界の中心で、愛をさけぶ」)を始め、映画・ドラマでの純愛ブームが見られますが、『不如帰』は、それらに勝るとも劣らないラブストーリーの逸品です。

文章は、明治の文語表現ですが、それほど苦になりません。また、会話文で語られる言葉の数々は、愛のなせリフにあふれています。この春、あなたも『不如帰』で愛の劇場(激情)を楽しんでみてください。

# 図書館古文書ライブラリー

熊本県立大学学術情報メディアセンターでは、大学創立時から図書館に収蔵・蓄積されてきた貴重資料を順次整理・修復し、一部を公開しています。

しらかわけん ひ ごのくにくまもとぜんず  
「白川県肥後国熊本全図」

明治6~8年頃



縦91.0×横67.0センチ。木版色刷り。坂田信存発行。

明治4年の廃藩置県により、熊本藩が熊本県となりますが、その後いく度か分離・統合が繰り返されます。その過程で、明治5年6月には熊本県は白川県と改称され、この名称は明治9年の2月まで続きます。そうした歴史的背景を映し出した地図です。現在の二本木に県庁が置かれていますし、熊本城が鎮台兵舎として記されています。現在の地図と対比することで、興味深い相違が幾つもみつかれることでしょう。朱で刷られている部分は寺院を示すようです。なお同じ熊本全図は、北海道大学附属図書館北方資料室にも伝存しています。

(解説：文学部 教授 鈴木 元)

## 「春秋彩」へのご意見・ご感想お待ちしております。

本誌についてのご意見・ご感想を下記までお寄せください。  
いただいたご意見は、今後の広報誌編集の参考にさせていただきます。  
〒862-8502 (住所記載不要)  
熊本県立大学企画調整室「春秋彩」担当  
FAX: 096-384-6765 E-mail: kikaku@pu-kumamoto.ac.jp

発行：熊本県立大学  
〒862-8502 熊本市月出3丁目1番100号  
TEL: 096(383)2929(代)  
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています



この印刷物は大豆インキを使用しています